

高脂血症患者における牛乳摂取の血清脂質に与える影響

国立循環器病センター研究所副所長 山本 章
動脈硬化代謝内科 都島基夫

高脂血症患者における全乳栄養の影響を検討した。

対象及び方法

対象は、男5人、女6人で平均年齢は55.2歳（46-64歳）の高脂血症患者である。前年度と同様、牛乳を原則として一日400mlを飲んでもらい、諸種検査を行った。

結 果

今回の対象者の牛乳投与前の臨床背景を表1に、投与後の臨床検査値の平均の変化を図2に示す。Body Mass Indexは飲用2ヵ月目でやや低下傾向（ $p=0.110$ ）を認めるが有意ではない。T-Ch値は飲用2ヵ月目で低下傾向を、HDL-Chは1-3ヵ月で増加傾向を示すがいずれも有意でなく、TG増加傾向を示すが有意の変化ではなかった。LDL-Ch値は1ヵ月目で -23mg と有意の低下を示し、2、3ヵ月目においても低下傾向を示した。

考 察

高脂血症者に牛乳を1日200-400mlの飲用では3ヵ月後までには脂質への悪影響は認めず、むしろ飲用後短期間においては、LDL-Chの低下ないし低下傾向と、HDL-Chの増加傾向を示した。これは、低カロリー下でのバター負荷食時に見られたのと同じ傾向¹⁾で、脂肪や飽和脂肪酸の軽度の負荷にともない、脂質代謝回転が速くなり、肝臓における脂質合成の亢進にともない、代償すべき脂質異化が亢進した結果と考えられる。

結 語

高脂血症患者に対して全牛乳400ml以内の飲用では、短期間においては、脂質代謝に悪影響を与えなかった。

参考文献

- 1) 都島基夫、永田健二、笠間敏男、西大条靖子、洪秀樹、藤井繁樹、南部征喜：高コレステロール血症における低エネルギー下、飽和脂肪酸負荷の影響、家族性高コレステロール血症の経静脈栄養における治療、Geriat Medd 23 (：1753-1762、1985

NAME	AGE	SEX	BMI	SBP	DBP	FBS	TC	TG	HDL-C	LDL-C	A.I	Fbgn	ATIII	Plgn
Y.Y	46	M	20.4	132	78	96	245	211	53	150	3.62	-	-	-
F.S	47	M	25.0	134	80	113	223	415	47	93	3.74	298	96.9	119.5
M.Y.	49	M	20.7	132	77	92	283	207	75	167	2.77	-	-	-
M.T	50	M	23.6	121	65	95	235	142	41	166	4.73	245	87.5	93.4
M.K	64	M	22.3	136	75	88	263	98	69	174	2.81	312	72.1	-
N.K	54	F	23.8	119	59	106	336	84	93	226	2.61	285	114.0	152.2
T.T	54	F	23.7	139	83	95	280	91	86	176	2.26	-	-	-
M.H[57	F	22.7	142	93	112	271	50	49	212	4.53	284	201.2	96.7
T.Y	57	F	24.4	102	53	95	238	140	77	133	2.09	-	-	-
T.A	58	F	27.6	154	89	91	207	76	47	145	3.40	359	90.7	108.0
M.K	63	F	25.1	120	69	94	230	104	42	167	4.48	-	-	-
K.N	63	F	18.9	126	68	97	235	75	88	132	1.67	381	97.5	114.5

表1 対象者の臨床背景

(%)	TC	TG	PL	VLDL	LDL	HDL-C	HDL-PI	LDL-C	A.I.
1 Month	1.8	3.1	0.7	9.2	9.1	9.8	2.6	-15.3	-13.9
2 Month	-5.9	14.8	-4.0	11.4	25.0	7.3	6.1	-11.2	-13.5
3 Month	3.5	48.5	8.2	35.6	-5.4	11.6	18.0	-3.3	-8.8
4 Month	-8.9	26.5	-6.2	39.9	-11.7	-6.1	10.7	-8.3	17.4

表2 牛乳飲用後の血清脂質の変化率